令和元年度第１回浜松市美術館協議会会議録

１　開 催 日 時　　令和元年７月３０日（火）　午後２時から午後４時

２　開 催 場 所　　浜松市美術館　講座室

３　出 席 状 況

（出席委員　８人）

会　長	瀧口　裕章	委　員	片桐　弥生	委　員	齊藤　昌子
委　員	内山　正己	委　員	大城　眞弓	委　員	村松　厚
委　員	市川　浩教	委　員	中村　さつき		

（欠席委員　０人）

（出席者の職氏名）

浜松市美術館長	飯室　仁志	浜松市美術館長補佐	内山　智夫
秋野不矩美術館長	吉川　利行	副主幹	石田　博基
学芸員	増井　敦子	学芸員	袴田　知恵
学芸員	島口　直哉		

４　傍　聴　者　　１人

５　議 事 内 容　　審議事項

(1) 会長の選出について

(2) 会長職務代理者の指名について

(3) 平成 30 年度浜松市美術館事業報告について

(4) 平成 30 年度浜松市秋野不矩美術館事業報告について

(5) その他

６　会議録作成者　　美術館美術振興グループ　石田博基

７　記 録 の 方 法　　発言者の要点記録

録音有

８　会　議　録

１　開会　　（石田副主幹）

２　浜松市美術館協議会委員委嘱書・任命書交付

３　浜松市美術館館長あいさつ（飯室館長）

４　自己紹介

５　議題

審議事項

(1) 会長の選出について

（委員の互選により瀧口委員が会長に選出され、委員全員と本人の同意を得る。）

(2) 会長職務代理者の指名について

（瀧口会長から村松委員に指名）

(3) 平成 30 年度浜松市美術館事業計画について

（事務局　担当学芸員から資料に基づき説明）

(4) 平成 30 年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について

（事務局　吉川秋野不矩美術館長から資料に基づき説明）

日本洋画 150 年展について

瀧口委員：ＳＮＳの取り組みでは具体的にどのようなことが変わったのか？

袴田：ご夫婦や高齢者もショールを掛けて写真を撮ってくださった。また、外国の方も日本洋画に興味を持ち、見どころや良かった点などをＳＮＳ等にアップし、広く広報することができた。

中村委員：団体利用が多かったのは、150 年展を意識しての申し込みだったのか？

袴田：教材に使用していた有名な作品も多かったこともあり、学校全体での利用もあった。その他にも一度は見ておきたい有名な日本画もあって申込されたのだと思う。

近藤喜文展について

内山委員：アニメの作り方が分かって大変参考になり良かった。

片桐委員：自己評価の改善点のところで、500 人以上の観覧者に対してスタッフの数が足りず運営に困難を来したとあるが、具体的にどのような状態だったのか？また今後どう改善していくのか？

館長：入館者の列がずらっと並んでしまった。このような経験がなく、整理がうまくいかなかった。スタートも２階から始まり１階に行くが、途中で混雑してしまった。ジブリ展は迷路状の造りになっていた。来館者の見込みと展示スペースの通路壁、入館手法を再考していきたいと思います。

内山委員：達成率 373％はすごい数字になっているが目標に対して実績がかけ離れているが目標設定はどのようになっているのか？

館長：ギャラリートークの参加人数が多くなってしまった為ですが、従前の感覚で 40～50 と想定していた。先ほどと同じで多くの方に聞いていただいた。

齋藤委員：観覧者の動線に問題がなかったとあるが、2 回で 140 人、1 回で 70 ほどと考えると、ちゃんと観れたのか疑問を感じる。

館長：マイクを使いギャラリートークをした。この手法は他のお客さんから苦情が出る場合もあるが、特になかった。今後、集団の大きさによって使い分けていく。

西洋絵画の世界展について

内山委員：来館者は 7,000 人。集客に努力していると伺えるが、達成率が低いのは残念。原因はどこにあるのか？

島口：広報でも何を「売り」に出していくのかに迷った。ポスター然り。魅力を発信しきれなかった。ＳＮＳを活用したが、ターゲットに考えていた年代と客層がマッチしなかった。

瀧口委員：展覧会としては西洋絵画としてとても良く、コローもいい作品であったが、似た作品がならんでしまった。そのあたりはどうだったのか。

島口：並び方を工夫したが、作品が少なく、小さかったので物足りなくなってしまったか。

瀧口委員：コンサートも一回やって即売と聞いた。もう一回やってみるとか工夫をしてもよい。大学へ出向いて講義をやられたという事でいろんな努力をされていて良いと思う。

齋藤委員：ギャラリートークを追加して計７回やったということは、とてもよい試みだと思う。アウトリーチは大学に限らず高校まで広げてもよいと思う。

島口：中学生や高校生は団体で来てくれた。展示室の中でギャラリートークをしながら教育普及プログラムに組み込んで行った。今後も継続してやっていきたい。

村松委員：ギャラリートークの参加者はどのような人達が多いのか？

島口：この西洋絵画展では年配の女性が多かった。最初は参加者が 20～30 人でも段々と多くなって 50 人くらいになった。

村松委員：西洋絵画展と日本洋画 150 年展を見たが、西洋絵画展は玄人向けだったような気がする。バルビゾンへの道とあったが、意味が分かるのか？という印象。一方でギャラリートークにこれほど集まるのは羨ましい。300％も来ていただけるのはその部分に今後も可能性があると思う。

スイスベルン絵画交流展について

村松委員：人的交流はあるのか？

袴田：近年はありませんが、もともとは柔道による交流からと聞いている。

齋藤委員：学校を通した申込と自主的な申込では差がありますか。

袴田：申込は半分くらいになったと思います。学校を通してやったときは授業としてやっていたところが多かった。変えたのは夏休みなどに実際に美術館に足を運んでもらうという狙いもあった。

村松委員：学校への働き方改革ですね。他に影響は？

袴田：他の展覧会のチラシも全児童に配布していたが、先生方の負担軽減のため学級単位となりました。

市展について

内山委員：前年度出品した人に案内を出しているのか？私は県の芸術祭等に作品を出しているが、その翌年度は全て参加要綱が送られてくる。

石田：これまでの市展では行っていない。今後参考とさせていただきます。

大城貞夫展

片桐委員：文化人との交流や町の絵など充実していたが、創作版画会における大城貞夫の位置づけや背景が分かりにくかった。名品セレクション展の創作版画とのリンクが出来ていないようだった。

秋美について

齋藤委員：各展覧会で小学生たちとの関わりがよい。地域に根ざしていて良いと感じる。遠方からの秋野不矩美術館の建築を見にくる人もいて非常によい美術館である。

内山委員：茶室は中を見たいという声をよく聞く。晴れた日とか開けて、ハシゴをかけて中を見るように出来ないか。

吉川館長：中の写真を美術館内に展示している。

内山委員：入館者が多かったとあるが、今後息長くと考えるなら日本画だけに特化するより、もう少し幅広く絡めて企画しても良いと思う。

瀧口委員：望矩楼だが、中をカメラで撮ってバーチャルで映像を流すと良いと思う。読み聞かせなど幼稚園との取組みはテレビとか声をかけたのか？

吉川館長：メディアには声を掛けた。

市川委員：秋野不矩美術館は昔から行っている。子ども達が参加できるのは非常によい試み。今後リニューアルする時には、居心地の良い場所・空間にすると、地元の人も来て憩いの場になる。あそこに行くと楽しいという空間にすると、自然に人が集まる。

齋藤委員：館内は靴を脱いで入り、鑑賞には座って見れる場所もあり、リラックスできてよい。絵本の原画も多いので、子供達にもっと行ってほしい。

中村委員：見て館を出たときに暑くなる。下の駐車場に行くまでに日蔭がないのであそこに木が欲しい。中の広い所はずっといたいと思えるよい空間。

内山委員：あの坂を情緒あるものにして、楽しんで登れるようにしたらもっと誘導できる思う。

(2) その他

（石田から美術館外部評価について説明）

今回から出た意見等を事務局で纏め、皆さんに送付しますので加筆等をお願いします。

8　閉会